



※撮影時のみマスクを外しています。

病院のお仕事発見

「リハビリテーション」編

早期の介入により
機能低下を最小限に防ぐ

皆さんは「リハビリテーション」の語源をご存知でしょうか？リハビリテーション(rehabilitation)とはラテン語の「re(再び)」と「habilis(行う能力がある)」に由来し、「再びできるようにする」という意味があります。

身体機能の回復や日常生活への復帰を、専門知識と技術によってサポートするリハビリテーションスタッフ。それぞれ役割の異なる3つの職種(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)があります(詳細は下記参照)。また、リハビリという病気やけがの治療が落ち着いた後に始めるイメージがありますが、最近では早い時期から開始することが増えています。

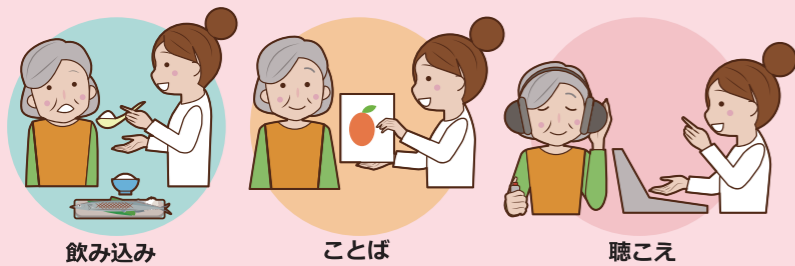
患者さんの状態にもよりますが、入院翌日からリハビリをスタートすることも。治療と同時進行でリハビリを実施することで、身体機能や筋力の低下を最小限に抑えることが目的です。

対応する病気もさまざまです。骨折などのけが、脳卒中の後遺症による半身麻痺、心筋梗塞、がん、肺炎など長期安静による運動能力や調節機能の低下、発達障害や失語症など幅広い疾患に関わります。そのためリハビリスタッフは病気の知識を持ちつつ、その患者さんに必要なリハビリを提供することが求められます。患者さんやご家族が望む生活への復帰を目指し、スタッフたちは挑み続けています。

病気の状態や目的に応じて
3つの専門職種がサポート。
日常生活への復帰を共に目指します。

言語聴覚士(ST)

言語聴覚士(Speech Therapist)は摂食嚥下機能や言語・聴覚機能のリハビリを担当します。脳の障害により発音がうまくできない、加齢により食べ物がうまく飲み込めないなどの機能障害に対して、検査や訓練で回復を促します。小児から高齢の患者さんまで幅広く対応します。



飲み込み

ことば

聞こえ

作業療法士(OT)

作業療法士(Occupational Therapist)は着替え、トイレ、入浴など日常生活に関わる動作全般のリハビリを担当します。市販されている生活支援用具なども使いながら、日常生活への復帰を目指します。お子さんの発達障害や精神科領域の疾患、認知症の患者さんにも携わります。



理学療法士(PT)

理学療法士(Physical Therapist)は主に運動機能のリハビリを担当します。立つ、座る、歩くといった基本動作の訓練や、回復を促す運動療法や物理療法(温熱や電気)を用い、身体機能を向上します。ご本人やご家族の希望を踏まえ、できるだけ元の生活に近い暮らしができるようサポートします。



長岡中央総合病院

リハビリテーション科 技師長
理学療法士

オグロ タカオ
小黒 孝夫

1987年入職、栃尾郷病院配属。
1991年三条総合病院、2004年柏崎総合医療センター、2006年佐渡総合病院(主任昇格)、2009年長岡中央総合病院(技師長昇格)、2012年新潟医療センター、2015年三条総合病院、2020年より長岡中央総合病院勤務。



現場に立ち続ける
ブレインゲーマネージャーでありたい。

※撮影時のみマスクを外しています。

厚生連にはさまざまなタイプの病院があります。それぞれの病院で違った経験を積むことができますし、興味を持った専門分野、例えば心臓リハビリや

—これまで多くの病院で勤務しています。

—これまでに多くの病院で勤務しています。

—リハビリの仕事の魅力とは？

—理学療法士を目指したきっかけを教えてください。

Interview

リハビリテーションの仕事の魅力や喜びとは？
在職35年目のベテラン、長岡中央総合病院の
小黒孝夫技師長にうかがいました。

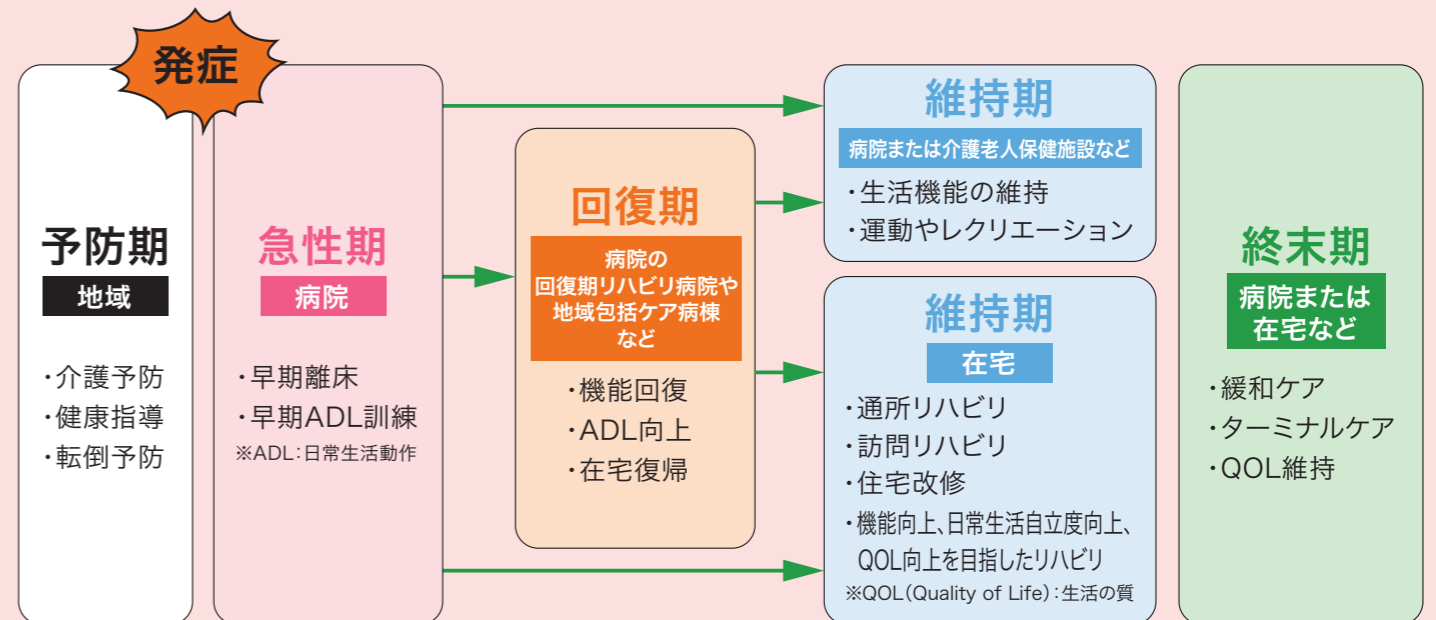
ポーツリハビリ、がんリハビリなどの知識を深めることも可能。関連する資格取得の支援制度もあるので、専門性を高めることが可能です。

—現在は32名のスタッフを束ねています。どんなスタッフですか？

前向きで、患者さんに寄り添うことのできるスタッフです。人数が多いので、スタッフ同士のコミュニケーションを大事にしています。患者さんの情報共有ももちろんですが、今考えていることを互いに話したり。リハビリスタッフは患者さんを元気づけられる存在であると同時に、察してあげることも重要。その意味でもコミュニケーション力が求められる仕事だと思っています。私自身もチームを管理する一方で、現場に立ち続けたい気持ちも大きいです。この先もブレインゲーマネージャーであり続けたいですね。

病院でも地域でも活躍するリハビリスタッフ
介護状態を防ぐための健康講座も

近年、リハビリテーションスタッフの活躍の場が拡大しています。まずはリハビリ以前に、介護状態にならないための地域の健康講座などに参加。病院では早い段階からリハビリを行い、寝たきりを防ぎ早期離床を目指します。退院後は、施設や在宅の訪問リハビリへ移行します。患者さんにとっては、慣れた病院のリハビリスタッフが変わるのは人間関係を新たに構築しなければならない負担があります。そうした患者さんの不安を軽減するため、病院から地域へと丁寧に引き継ぎ、安心してリハビリを受けていただける環境を整えています。



健康講座の様子



早期離床



在宅復帰の様子

チーム医療で患者さんとご家族を支えます

リハビリテーションスタッフもチーム医療の重要な一員です。リハビリとは、生活に関わることすべてです。病院における生活の場である病棟の中心的存在である医師や看護師、メディカルソーシャルワーカーと深く連携しながら患者さんを支えています。



リハビリに関わる主な職種

- 医師
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 看護師
- 介護福祉士
- 管理栄養士
- ケースワーカー
- 臨床心理士
- 義肢装具士
- ケアマネージャー



**患者さんが生活の楽しさを
感じられるようサポートしたい**

発達障害などで発音がうまくできないお子さん、飲み込みがうまくできない方、脳の障害による失語症の方など幅広くリハビリを担当しています。長期間接してきたお子さんが上手に発音できるようになったりするのを見ると、感慨深いですね。また、最近では年配の方の誤嚥性肺炎が増えています。繰り返し返さないために、食べ物や食べ方の指導をさせていただくこともあります。

「話す」「食べる」という当たり前のことができないのは、患者さんにとって大きなストレス。思いを汲み取り、必要な支援につなげることで、そのストレスを減らしたいです。患者さんが安心して、生活の楽しさを感じられるよう今後もサポートしていきたいと思っています。

※撮影時のみマスクを外しています。



次号は「緩和ケア」認定看護師です！

リハビリテーション科からバトンを受け取りました、「緩和ケア」認定看護師です。次号は緩和ケアの仕事についてのお話をお届けします。どうぞご期待ください！



リハビリで大切にしているのは、患者さんをよく知ること。単なる訓練や指導にしないために、病気の状態、家族構成、そのご家族がどの程度介助できるかなど、患者さんの背景を知ること、一人ひとりに合ったリハビリを提供することを心がけています。

退院後の日常生活動作に不安のある人が、できるだけ快手にする便利グッズなども紹介しながら、できるだけ快適な在宅生活につなげていくサポートをしています。最近では地域で介護予防やフレイル予防の健康講座をさせていただく機会も増えています。地域とのつながりはこれからも増やしていきたいです。



**介護予防の講座も積極的に
地域とのつながりを増やしたい**

糸魚川総合病院 リハビリテーション主任 松澤しのぶ
作業療法士



**患者さんが「できること」を引き出し
楽しく取り組めるリハビリを**

小千谷総合病院 理学療法士 尾身真由美

ハンドボール部のマネージャーをしていた高校時代に、スポーツ医療やリハビリに興味を持ちました。職場体験で病院に行き、スポーツに限らずさまざまな病気や怪我にリハビリが関わっていることを知り、総合病院への就職を志しました。現在は病棟専従の理学療法士として、トイレや歩行など、日常生活に関わる動作の習得を支援しています。

リハビリでは、完全に元の生活に戻るのには難しくても、患者さんがこれならできると、ご家族もここまでなら介助ができるというポイントを見つけ、折り合いをつけることも重要です。患者さん自身ができることを引き出しながら、患者さんが笑顔になれるようお手伝いしていきたいです。

インタビュー

私は、リハビリテーションの仕事が大好きです！

治験NEWS

治験に薬剤師も関わってます

薬剤師が治験事務局をしています。治験に参加される患者さんの人権等を守り、実施・継続することに問題はないか、治験薬(くすりの候補)を薬学的に評価しています。

実施中	● 潰瘍性大腸炎	● クローン病	● 血友病
	● 市中肺炎	● 癒着防止剤	

※該当する方や詳細を知りたい方は、主治医にお申し出ください。治験に参加するには細かい条件があります。ご希望いただいても、参加いただけない場合がございます。